

美術学科

1. 教育内容

美術学科では大学での4年間を通し、個人の発想を独自性のある表現の域にまで高め、主体的に美術に取り組むことを目指します。

洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、美術教育専攻、国際芸術文化専攻の各専攻で専門性を深め、さらに5専攻の連携によって、専門の周辺領域の技術と理論を横断的に学びます。多様な美術に関する幅広い知識と認識を持つことで、美術活動や美術普及などによって社会に関わり「美術で生きる」ことのできる人材を育成します。また、個人の感性や考えに基づく実感の伴う新たな表現を追及するために、実技や理論研究による実践的経験にもとづく自信、知識を自己の表現と結びつける洞察力、客観的な視野で美術活動全体から専門領域を認識する論理性、それらを基にして自分の目指す表現と方法を確立します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次は専攻における基礎的な技術と知識の修得、2年次は専攻（コース）の基礎および専門技術の修得を中心に、美術の基礎として美術史、美術理論、専攻を越えて「美術学科オープン実技A・B」、「美術学科オープン演習A・B」を学びます。

美術史は、「西洋美術史概説」、「日本美術史概説」および「東洋美術史概説」を必修科目とします。美術理論は2年次から選択必修で履修します。「国際芸術文化オープンゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」・「美術教育論A・B」を選択科目とします（国際芸術文化専攻は国際芸術文化オープンゼミⅡ必修）。実技基礎技法・技術は、1年次「美術学科オープン実技A」、2年次「美術学科オープン実技B」を選択科目とします。絵画・立体の素材・技法とデジタル技術・表現は、1年次「美術学科オープン演習A」、2年次「美術学科オープン演習B」を選択科目とします。

3年次は、1年次での専攻と美術の基礎、2年次での専門（コース・ゼミ）の基礎の上に、各自の発想を表現に結びつけるためにコンセプトの熟成をおこない、表現に適した専門技術の修練に努めます。「美術で生きる」では、多様な専門家から美術の現場と実践について学びます。

国際芸術文化専攻は、多文化理解から国際的に活躍できる教養人の育成を目指します。洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、美術教育専攻の学生が理論研究を目指す場合、選択科目の「国際芸術文化オープンゼミ」に参加することができます。また「美術教育オープンゼミ」への参加により、美術教育普及について実践的に学ぶことも可能です。4年次は、4年間の集大成として、各自の主題の明確化につとめ、その表現に必要な専門の技術を錬磨し独創性のある作品制作または理論研究を目指します。

| | |
|--------------------------|---|
| 美術学科 教育目標・人材の養成に関する目的 | 美術学科は、過去、現在、未来にわたる、広範な芸術的制作、芸術的理論の探求に基づき、芸術表現およびその研究を練磨することを教育目標としている。平面表現、立体表現の制作技術の鍛錬、作品コンセプトの熟成、芸術理論による表象的意味の理解を通して、社会に対する深い洞察に基づいた創造的活動を持続的に行える人材の養成を目的としている。 |
|--------------------------|---|

| 科目区分 | ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | 授業科目 | |
|--------------------------|--|---|---|--|
| 美術学科 専門科目 (学科共通科目) | 美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。 | 教育目標に到達すべく、各専攻のカリキュラムと学科共通科目を通して、美術史や芸術理論を学び、他ジャンルにおける芸術の表現方法や素材に触れ、感性を養い、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成します。 | / | |
| | 【知識・理解】 (教養力・専門性) | 美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。 | 美術全般における理論と技法、伝統や歴史などを理解し制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を養うための科目を配置する。 | 1 年次 【講】 絵画素材論 A 【講】 絵画素材論 B 【講】 西洋美術史概説 【講】 日本美術史概説 【講】 東洋美術史概説 2 年次 【演】 ミュージアムエデュケーション演習 【実】 教職絵画 【実】 教職彫塑 3 年次 【講】 アート修復基礎論 【実】 教職工芸 【実】 教職デザイン 2 年次～4 年次 【講】 色彩文化概論 【講】 配色調和論 【講】 技法史 【講】 芸術政策と法 【講】 創作活動と法 |
| | 【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性) | 作品や論文制作における課題やテーマを探索し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していきける能力と態度を身に付けている。 | 作品制作や研究の実践を通して、自己のアイデンティティを確立しその個性を磨き続ける意欲と、生涯にわたり自己成長を継続できる力と態度を養う科目を配置する。 | 1 年次 【講】 美術で生きる 【実】 美術学科オープン実技 A 【演】 美術学科オープン演習 A 2 年次 【実】 美術学科オープン実技 B 【演】 美術学科オープン演習 B 2 年次～4 年次 【講】 アート・アクティビティ A 【講】 アート・アクティビティ B 【講】 デザイン批評 B |
| | | 美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。 | 自らの専門分野以外の技術と理論も積極的に学ぶ態度を養い自らの制作や研究に活かす力を養う科目を配置する。 | |
| | 【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力) | 理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。 | 理論研究を通して論理性や洞察力を身に付け、自分の目指す表現方法を確立する力を養う科目を配置する。 | 2 年次～ 【演】 アートプラクティス I 【講】 視覚心理学 【講】 文化資源学 【講】 ヴィジュアルスタディーズ B 【講】 デザイン批評 A 【講】 芸術人類学 【講】 芸術民俗学 【演】 美術教育オープンゼミ A 【演】 美術教育オープンゼミ B |
| | | 国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。 | 国際問題、社会問題や時代変化について学び、美術の知識や技能をどのように活かすか構想し、発信する力を養う科目を配置する。 | |
| | 【技能・表現】 (創造力・独創性・対話力) | 自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。 | 独自性のある表現で作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けるための科目を配置する。 | 2 年次～4 年次 【演】 芸術文化オープンゼミ I 【演】 アートプラクティス II 【講】 ヴィジュアルスタディーズ A 3 年次～4 年次 【演】 芸術文化オープンゼミ II 4 年次 【演】 芸術文化オープンゼミ III |
| | 自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。 | 自身の表現や研究について言語化できる力、他者に伝える対話能力を身に付けるための科目を配置する。また、他者の表現や研究についても客観的に分析、理解し、考察できる態度や力を身に付けるための科目を配置する。 | | |

美術学科 洋画専攻

1. 教育内容

平面絵画を中心に、油彩画、版画、ミクストメディア、インスタレーション、映像、デジタルアートなど多様な表現を学びます。

美術活動全体から専門領域を認識するために、美術の基礎としての美術史、美術全般の基礎となる平面・立体の素材と技法・手法、さらに実線に即した美術理論を横断的に学びます。美術に対する視野を広げ、制作・研究を通して自己のテーマに沿った表現方法を見つけ、活動や発表の経験を重ね社会に発信できる表現者を育成します。

2年次から絵画コースと版画コースに分かれます。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次]

「絵画A」では油彩画を中心に、対象を観察して描くことに重点を置いた絵画の基本を学びます。「絵画B」では多様な素材や手法、技法に触れて専門性を身につけ、発想を表現につなげる方法を学びます。また、作品のベースとなる思考や制作のプロセス、作品を記録しポートフォリオを作成します。

[2年次]《絵画コースと版画コースに分かれます。》

【絵画コース】

「絵画A」で描くことの基本を、「絵画B」で油彩画にとどまらず多様な表現を選択し専門性を身につけます。

【版画コース】

基本の4版種の、木版・銅版・リトグラフ・シルクスクリーンの基礎的技術と知識を学びます。また、先端的な版画表現も身につけます。

[3年次]

【絵画コース】

創造的発想を表現につなげるための専門的な技法、技術を習得します。グループワークによってプロジェクトを体験します。ディスカッションやプレゼンテーションの力を鍛えます。

【版画コース】

版種を選択し、幅広い専門知識と技術を習得して独自の表現を追求します。ディスカッション、プレゼンテーション能力を養う機会も多くあります。

[4年次]

【絵画コース】

これまでに培った創造的表現力や、表現方法を土台に、テーマを明確化することで独自の作品制作を目指します。ゼミ形式で各自の発想を総合的に展開し、社会的な創作活動の出発点となる卒業制作を行います。

【版画コース】

発想力と専門的な技法や技術を深め、独自の表現を追求します。多様な表現方法との融合を図りながら、今日的な版表現を切り拓き、卒業制作を行います。

| | |
|----------------------------------|--|
| 美術学科 洋画専攻 教育目標・人材の養成に関する目的 | 洋画専攻では、「個性の尊重」「オリジナリティの追求」「制作におけるプロセスの重視」を教育方針とし、現代社会に対応した多様な美術表現の知識と技術を兼ね備え、芸術活動をもって社会活動・創造活動のできる人材の育成を教育目標とする。 |
|----------------------------------|--|

| 科目区分 | ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | 授業科目 | |
|--------------------------|--|---|--|---|
| 美術学科 洋画専攻 専門科目 | 美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。 | 教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。 | | |
| | 【知識・理解】 (教養力・専門性) | 美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。 | 表現者として求められる知識や技能を身に付けるための科目を配置する。また、美術における文化や歴史について習得した知識を、自身の制作や研究につなげ、社会貢献や美術の普及のために活用する能力を獲得するための科目を配置する。 | 絵画コース 1年次 【演習】基礎構成演習 【実技】デッサンⅠ、絵画ⅠA 絵画コース 2年次 【実】デッサンⅡ、絵画ⅡA 3年次 【実】絵画ⅢA 版画コース 2年次 【演】版画表現演習Ⅰ |
| | 【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性) | 作品や論文制作における課題やテーマを探求し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していきける能力と態度を身に付けている。 | 選択制の授業を積み重ねることにより、表現の展開とともに専門性を深め、作品制作におけるテーマと表現方法を確立するための科目を配置する。 | 絵画コース 1年次 【実】絵画ⅠB 2年次 【実】絵画ⅡB 3年次 【実】絵画ⅢB 版画コース 3年次 【演】版画表現演習Ⅱ |
| | | 美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。 | 自らの専門領域以外の表現方法、表現技法を学び理論をリサーチすることで複合的な思考、手法を身につけるための科目を配置する。 | 版画コース 3年次 【演】版画表現演習Ⅱ |
| | 【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力) | 理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。 | 理論研究の視点から自身の作品について考察し、その特徴を発見するとともに目指す制作テーマを確立する力を身につけるための科目を配置する。 | 絵画コース 1年次 【実】絵画ⅠB 2年次 【実】絵画ⅡB 3年次 【実】絵画ⅢA、ⅢB 4年次 【実】絵画Ⅳ、卒業制作 |
| | | 国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。 | 様々な社会問題や時代変化に対して美術を通してどのような問題提起や活動が可能かなどを論理的に考えるとともに、発表やプロジェクトなどを通して発信できる能力を身につけるための科目を配置する。 | 版画コース 2年次 【実】版画Ⅰ、デッサンⅡ 3年次 【実】版画Ⅱ、素材実験Ⅰ 4年次 【実】版画Ⅲ、素材実験Ⅱ、卒業制作 |
| 【技能・表現】 (創造力・独創性・対話力) | 自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。 | 【絵画コース】 表現の展開と専門性、独創性の探究を通して、各自のテーマと表現方法を確立するための科目を配置する。 【版画コース】4版種から各自の表現に適した版種を選択し、絵画的発想と版を作る技術との融合を図り、資質にあった表現方法を確立するための科目を配置する。 | 絵画コース 2年次 【実】絵画ⅡB 3年次 【実】絵画ⅢA、ⅢB 4年次 【実】絵画Ⅳ、卒業制作 | |
| | 自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。 | 【絵画コース】 実践的社会活動としての美術を探究し、学内外での作品発表やワークショップなどを通して、作品ポートフォリオ制作、プレゼンテーション、ディスカッション能力を身に付ける科目を配置する。また作品鑑賞力を高め、批評性を身につけるための科目を配置する。 【版画コース】 幅広い専門的知識と技術を習得し、それらを活かして自らの制作のコンセプトと表現方法を言語化して他者に伝達する能力を身に付ける。また他者の作品についても客観的に分析し、建設的な議論へ繋げることができる力を身につけるための科目を配置する。 | 版画コース 2年次 【実】版画Ⅰ、デッサンⅡ 3年次 【実】版画Ⅱ、素材実験Ⅰ、版画表現演習Ⅱ 4年次 【実】版画Ⅲ、素材実験Ⅱ、卒業制作 | |

美術学科 日本画専攻

1. 教育内容

教育目標達成への具体的取り組みとして、様々なサイズの絵画を制作できる能力獲得を実技目標にしています。特に大作を描くには、相応の技術と豊富な経験が要求されます。そこで、4年間の実技を通じて段階的に画面サイズを拡大させながら、全身で描く能力を身につけていきます。卒業制作でF150号（227cm×182cm）程度の日本画の大作を自身の力で完成させることが学位取得の必要条件となります。4年間の実技課程を通じて日本絵画の伝統に裏付けされた安定感ある技法を軸として、日々更新される研究成果と社会情勢を踏まえた古典研究、日本画素材研究、特別授業などを柔軟に展開し、広い見識を持った日本画の専門家の輩出を目指します。インターネットが普及し仮想現実空間に絵画世界が広がり、止まることを知りません。絵画制作で各自が抱える技術的限界は、AI技術の進化により拡張し補われることで、利便性と可能性を享受できる反面、生身の自分と向き合う機会は失われ続けています。そのような状況を踏まえ、女子美術大学日本画専攻は、絵具を溶き、筆を執り、和紙の画面に向き合う原初的身體性を重視し、物質を扱う絵画表現こそが、美術大学における絵画教育の核心であると位置づけ、創造の実感がえられるカリキュラムの構築に努めています。

2. カリキュラム編成の特徴

デッサン及び写生・小下図と大下図による構成力の向上を重視した日本画制作研究を軸に、古典研究・日本画素材研究・特別授業 および他分野の実技制作などが連動し、時代に即した授業を構成しています。

（1）日本画制作研究

伝統的日本画材料による課題制作で、学部4年間のカリキュラムの柱となる研究です。

小下図作成、大下図作成、中間講評、最終講評とチェックポイントを設定し、学生と教師間の討論を重ね、造形力・構成力の獲得を確実なものとしします。

基礎から個性ある表現まで、段階を踏んで絵画制作能力向上を目指します。

〔1年次〕

伝統的画材や基礎技法の習得と、植物、風景、動物などのデッサンや写生を通じた基礎造形力の向上を目的とし、各自の制作能力に合わせた授業を行います。

〔日本画基礎 IA〕〔日本画基礎 IB〕

〔2年次〕

作品サイズを更に拡大させた日本画制作を軸としながら、古今東西の絵画技法研究に多角的に取り組むことで、現代の日本画を生み出すための柔軟な思考を培います。

〔日本画基礎 IIA〕〔日本画基礎 IIB〕

〔3年次〕

100号程度の大制作を軸に主体性を重視した制作を展開し、表現者としての自覚を促します。作品発表や「プレゼンテーション演習」を通じて、発信力を高めることで、社会性と思考力を身に付けます。

〔日本画研究 IA〕〔日本画研究 IB〕

〔4年次〕

各自のテーマを探求し、習得した技術・技法を基に大作に挑みます。F150号程度の卒業制作がカリキュラムの集大成です。

〔日本画研究 II〕〔卒業制作〕

（2）古典研究

1年次から3年次の古典模写授業で、日本絵画の歴史と技法に触れる機会を設けています。

また、歴史ある本校の日本画教育資料を編纂し、その実績を反映させながら独自性ある古典教育を目指しています。

(3) 日本画素材研究

天然顔料研究を原初とし、30年以上の歴史を持つ本校の素材研究成果を基盤とする研究授業を2年次中心に設定、それぞれの分野の専門家を講師に、日本画の用具、用材を研究し、材料の特性をしっかりと把握するとともにその可能性を研究します。

(4) 特別授業及び他専攻実技・演習

日本画教育において欠くことのできない材料・技法の授業と、時代の変化により必要と判断される授業を柔軟に取り入れ、特別授業として開設しています。また他専攻実技の体験、他分野との共同講義・演習により視野を広げ、創造の多様性を理解します。

[美術学科オープン実技 A] [美術学科オープン実技 B] [美術学科オープン演習 A] [美術学科オープン演習 B]

| | |
|-----------------------------------|---|
| 美術学科 日本画専攻 教育目標・人材の養成に関する目的 | 日本画専攻では、作品制作を主としながら、材料・素材研究や古典研究など幅広い視点から総合的に日本画を学ぶことで、自然と人間への理解を深め、個々の豊かな資質と若い感性を活かした次代の日本画の創造に主体的に取り組み、生涯美術に関わることでできる人材の育成を教育目標とする。 |
|-----------------------------------|---|

| 科目区分 | ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | 授業科目 | |
|-----------------------|----------------------------------|--|--|---|
| 美術学科 日本画専攻 専門科目 | 美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。 | 教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。 | | |
| | 【知識・理解】 (教養力・専門性) | 美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。 | 日本の歴史や伝統、文化に関する理解や、日本画制作の工程、日本画絵具の特徴を学び身につけるとともに、作品発表を通してプレゼンテーション力を高め、社会に発信していく力を養うための科目を配置する。 | 1年次 【実】日本画基礎ⅠA、日本画基礎ⅠB 2年次 【実】日本画基礎ⅡA 3年次 【実】日本画研究ⅠB 【演】プレゼンテーション演習 4年次 【実】日本画研究Ⅱ |
| | 【関心・意欲・態度】(主体性・積極性) | 作品や論文制作における課題やテーマを探求し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していける能力と態度を身に付けている。 | 対象から学ぶ写生の重要性を基にした日本画制作を通して、日本画表現技法の習得、専門性を深め、自己の作品制作のテーマを追求しながら、生涯にわたり制作を継続する力と態度を身に付ける科目を配置する。 | 1年次 【実】日本画基礎ⅠA 2年次 【実】日本画基礎ⅡB 3年次 【実】日本画研究ⅠA 4年次 【実】日本画研究Ⅱ、卒業制作 |
| | 【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力) | 理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。 | 取材方法、構成方法、表現技術という作品制作プロセスの研究を通して構想段階の重要性について理解を深め、各自の発想をより堅固な形にしていけるための科目を配置する。 | 1年次 【実】日本画基礎ⅠA、日本画基礎ⅠB 2年次 【実】日本画基礎ⅡA 3年次 【実】日本画研究ⅠA、日本画研究ⅠB 4年次 【実】日本画研究Ⅱ、卒業制作 |
| | 【技能・表現】 (創造力・獨創性・対話力) | 自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。 | 日本画制作、素材研究や古典研究を通して、日本絵画材料と表現技法に向き合い、自由で獨創性豊かな作品制作、研究を行うことができる力を身に付ける科目を配置する。 | 1年次 【実】日本画基礎ⅠB 2年次 【実】日本画基礎ⅡB 3年次 【実】日本画研究ⅠB 4年次 【実】日本画研究Ⅱ、卒業制作 |
| | | 自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。 | 創作表現について論理的に考察、文章化するとともに、学内外での作品発表やギャラリートークの実施を通して、自身の表現について言語化して他者に伝える力や他者の作品についても客観的に鑑賞、考察する力を身に付けるための科目を配置する。 | |

美術学科 立体アート専攻

1. 教育内容

立体アート専攻では彫刻という枠を超え、従来の素材・様式などに捉われない造形表現を追求し、多様な素材による立体造形の可能性を追求します。

それに伴い、立体造形に関する専門的な知識や、素材に適した幅広い造形技術を身につけます。また、それらを組み合わせる等、柔軟に展開していく中で、独創性にあふれる表現を目指します。

芸術の本質と普遍性を探り、個々の感性を磨き、深い洞察力を有する自由で豊かな感性と発想による表現活動をする人材を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次 「彫塑基礎」では、デッサンを通して表現の基礎となる「ものの見方」や「物を立体的に捉える力」を養うとともに、粘土による彫塑の課題を通して、彫刻を制作する上での基礎となる造形力を身に付けます。

「立体基礎Ⅰ」や「工芸」では、粘土以外の素材に触れながら、立体造形の基礎的な技術や技法を習得し、素材の持つ特性を学びながら立体作品を制作するための思考方法の習得を目指します。

「美術学科オープン実技A」では、自専攻又は他専攻の実技に取り組み、他分野の素材の知識と扱い方や技法を習得し視野を広げ、新たな試みに挑戦します。

2年次 「素材実習」では各素材の扱い方や、作品制作に必要な技術を習得します。

「立体基礎Ⅱ」では自ら選択した素材を使っての作品制作や、「立体基礎Ⅰ」を基により発展した課題に取り組みます。

「美術学科オープン実技B」では、自専攻又は他専攻の実技に取り組み、他分野の素材の知識と扱い方や技法を習得し視野を広げ、新たな試みに挑戦します。

3年次 「塑造」「繊維」「木」「石」「金属」の中から自分の制作に合った素材を選択します。高度な技術を身につけ、表現の幅を広げ、独自の表現法を模索していく中で、自分の研究テーマを見つけ出す事を目指します。

4年次 それまでに習得した専門知識と技術をもって独自の造形性を探求し、各自の研究テーマを深掘り、展開し、4年間の集大成となる卒業制作を行います。

| | |
|-------------------------------------|--|
| 美術学科 立体アート専攻 教育目標・人材の養成に関する目的 | 立体アート専攻では、芸術の本質を見据え、彫刻という枠と従来の素材・様式などに捉われない独自の造形表現を追求し、立体造形に関する専門的な知識や高度な技術の上に、豊かな感性と深い洞察力を有する人材の育成を教育目標とする。 |
|-------------------------------------|--|

| 科目区分 | ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | 授業科目 | |
|-------------------------|----------------------------------|--|--|---|
| 美術学科 立体アート専攻 専門科目 | 美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。 | 教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。 | | |
| | 【知識・理解】 (教養力・専門性) | 美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。 | 彫刻を制作する上での基礎となる造形力と知識、様々な素材を扱うための専門的な技能と表現力を習得するための科目を配置する。また、作品と社会との関わりについても考察し、修得した芸術的創造力を社会に還元する力を身に付けるための科目を配置する。 | 1年次 【講】彫塑概論 【実】彫塑基礎、立体基礎Ⅰ、工芸 2年次 【実】立体基礎Ⅱ、素材実習 |
| | 【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性) | 作品や論文制作における課題やテーマを探求し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していける能力と態度を身に付けている。 | 自身の選択した素材での制作を通して専門性を深め、自身の制作の方向性を定めて行くなかで、生涯にわたって自分らしい表現を模索しながら成長していける力を身に付けるための科目を配置する。 | 1年次 【実】彫塑基礎、立体基礎Ⅰ 3年次 【実】立体研究ⅠA、立体研究ⅠB 【演】造形表現演習 |
| | | 美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。 | 立体造形による表現を深く学ぶために、デッサンや彫塑などの制作を通して表現の基礎となる「ものの見方」や「物を立体的に捉える力」を養うための科目を配置する。 | |
| | 【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力) | 理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。 | 今日も広がり続ける「彫刻」の概念を西洋美術および日本美術の視点から学び、形や構造、技法、素材等について、多角的に考察することで立体造形に関する知識、理解を深めるための科目を配置する。 | 3年次 【演】造形表現演習 4年次 【実】立体研究Ⅱ、卒業制作 |
| | | 国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。 | 演劇、美術館、ギャラリー見学等により様々な分野の芸術の力の原点を確認するとともに、ワークショップの企画と実践を通して、その芸術の力を地域社会が抱える問題点とその解決にむけて発信する力を身に付けるための科目を配置する。 | |
| | 【技能・表現】 (創造力・獨創性・対話力) | 自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。 | 自らの選択した素材での制作を繰り返す中で得た専門的な技術を基に、独自性のある表現手法やテーマを確立するための科目を配置する。 | 2年次 【実】立体基礎Ⅱ 3年次 【実】立体研究ⅠA、立体研究ⅠB 【演】造形表現演習 4年次 【実】立体研究Ⅱ、卒業制作 |
| | | 自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。 | 制作を継続する中で得た専門的な知識や技術、先行研究から得た幅広い教養と知識を基に、自身や他者の作品について客観的な視点から分析・理解し言語化する力を身に付け、他者との対話力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身に付けるための科目を配置する。 | |

美術学科 美術教育専攻

1. 教育内容

美術科の教員あるいは美術に関する社会教育の専門家として社会に広く貢献できる人材を育成するために、絵画、彫刻、デザイン、工芸に関する幅広い知識と表現の方法、美術史・美術理論に関する全般的な知識、および美術教育に関する基礎的・実践的な知識と技能を学びます。

実技は主に、「造形表現A」「造形表現B」「デッサン」の3つから構成されます。

「造形表現A」は、自専攻で学ぶ実技で、絵画、彫刻、デザイン、工芸の各領域における技術・手法を幅広く習得するとともに、自己評価・相互講評などを通して鑑賞・批評能力を養います。（1年次「造形表現基礎ⅠA」、2年次「造形表現基礎ⅡA」、3年次「造形表現研究ⅠA」）。「造形表現B」は、学科内他専攻の各領域における表現方法や知識を学ぶことで、美術全体の技術・手法に対する理解を深め、造形表現に対する幅広い視野を形成します（1年次「造形表現基礎ⅠB」、2年次「造形表現基礎ⅡB」、3年次「造形表現研究ⅠB」）。「デッサン」は、基礎から応用まで段階的に学び、自身が追究するテーマの表現領域において、独自性、創造性を実現する表現力の基盤となる技術を養います。

さらに、演習やゼミ形式の授業を通して、美術教育・教育心理学の理論を応用した美術科教育の方法や教育活動の在り方を構想・実践し、美術教育の指導者に求められる実践的指導力やコミュニケーション力を培います。

2. カリキュラム編成の特徴

〔1～2年次〕

美術教育専攻実技科目の基幹となる「造形表現基礎A」では、絵画、立体表現、コンピュータ実習を3つの柱として、透明水彩画や油彩画、木版画、シルクスクリーン、絵本、彫刻・木工、デザイン、バスケットリーなど多様な表現の技術・手法について学び、基礎の習得から作品制作までを目指します。さらに、「造形表現基礎B」「デッサン」などの実技に加えて、美術学科の共通科目である西洋美術史、日本美術史、東洋美術史や絵画・立体表現の基礎実技、技法・素材に関わるオープン実技・演習などを学びます。

〔2～3年次〕

美術教育に関する専門科目として、2年次から「美術教育ゼミ」、3年次から「美術教育演習」が始まります。演習やゼミ形式の授業では、美術教育や教育心理学の理論に基づく指導法を学び、教育活動やワークショップ等の実践を通して、美術教育による社会への貢献について理解を深めるとともに、指導者に必要な資質・能力を養います。この他に、学校教育における美術科の内容や指導法を探究する「美術科教育内容指導論」などの授業があり、教員としての実践的指導力を高めます。

〔3～4年次〕

教育実践活動と関連付けた「造形表現研究A」の実技や絵画、立体表現などの中から、より専門性の高い領域に分かれて制作する「造形表現研究B」での実技経験を生かして、4年次では自己が独自に追究するテーマの表現領域における自由制作に取り組みます。これまでに習得した幅広い教養と知識、技術の総まとめとして、卒業制作または、美術教育の理論や指導法に関する実践的研究を卒業論文の形にし、4年間の集大成として発表します。

| | |
|------------------------------------|--|
| 美術学科 美術教育専攻 教育目標・人材の養成に関する目的 | 美術教育専攻では、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論に関する幅広い知識・技術と実践力を兼ね備え、美術教育で社会に広く貢献できる人材の育成を教育目標とする。 |
|------------------------------------|--|

| 科目区分 | ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | 授業科目 | |
|------------------------|--|--|--|---|
| 美術学科 美術教育専攻 専門科目 | 美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。 | 教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成します。 | | |
| | 【知識・理解】 (教養力・専門性) | 美術全般の素材や表現技能、文化や伝統、歴史に関する知識を身に付け理解し、自身の制作や研究を深めるとともに、美術の教育や普及、社会に貢献できる力を身に付けている。 | 学校教育における美術（芸術）科の目標と内容を理解し、美術科教育の理論に基づく指導法に関する知識と実践的指導力を養う科目を配置する。 | 2年次 【講】美術科教育内容指導論 A 3年次 【講】美術科教育内容指導論 B |
| | 【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性) | 作品や論文制作における課題やテーマを探求し、制作、研究を通して生涯にわたって成長していける能力と態度を身に付けている。 | 学科内他専攻及び他学科の各領域で習得した技術・手法を自身が追究するテーマの実現に積極的に活用する態度を養う科目を配置する。 | 1年次 【実】造形表現基礎 I B 2年次 【実】造形表現基礎 II B 【講】デザイン・工芸論 A、デザイン・工芸論 B 3年次 【実】造形表現研究 I B デザイン・工芸選択実技 A |
| | 【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力) | 美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。 | 学科内他専攻及び他学科の各領域における表現方法や知識を学ぶことで、美術全体の技術・手法に対する理解を深め、造形表現に対する幅広い視野を形成する科目を配置する。 | 2年次 【演】美術教育ゼミ A 3年次 【演】美術教育演習 【演】美術教育ゼミ B |
| | | 国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。 | 美術教育による社会への貢献について理解を深め、学校教育の現状を踏まえた実践的な活動の経験を通して、指導者に必要な資質・能力を養う科目を配置する。 | |
| | 【技能・表現】 (創造力・独創性・対話力) | 自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。 | 絵画、彫刻、デザイン、工芸の各領域における技術・手法を幅広く習得するとともに、自身が追究するテーマの表現領域において、独自性、創造性を実現する技術、表現力を養う科目を配置する。 | 1年次 【実】造形表現基礎 I Aa 【実】造形表現基礎 I Ab 【実】造形表現基礎 I Ac 【実】デッサン I 2年次 【実】造形表現基礎 II Aa 【実】造形表現基礎 II Ab 【実】造形表現基礎 II Ac 【実】デッサン II 3年次 【実】造形表現研究 I Aa 【実】造形表現研究 I Ab 【実】造形表現研究 I Ac デッサン III 4年次 【演】造形表現研究 II 【演】卒業研究 |
| | 自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。 | 絵画、彫刻、デザイン、工芸の各領域における発想・構想能力と論理的思考に基づく鑑賞・批評能力を養う科目を配置する。 | | |

美術学科 国際芸術文化専攻

1. 教育内容

国際芸術文化専攻では、美術大学ならではの多文化理解の授業を通じて主体的な思考力を身につけ、多文化共生社会を担う国際教養人を育成することを目指します。

4年間を通して世界の芸術文化に関する基礎知識を学ぶだけでなく、コンピュータスキルや語学の習得のほか、カタログの編集作業など様々なグループワークの中で、自身の意見や学んだ内容を他者に伝えるスキルを習得します。

2年次からは、「日本美術史」、「西洋美術史」、「芸術人類学」、「芸術表象」、「芸術と法」、「色彩学」、「アート表現」の7分野からゼミを選択し、自身の興味関心に沿って多角的かつ段階的に理論の探究を深めていきます。

また、国際芸術文化専攻の教育における大きな柱は、国内外で実施する研修です。急激に変化していく社会情勢の中、従来の固定観念にとらわれずに多様な文化や価値観を理解するためには、日本を含めた世界の芸術文化を自身で体験・経験し、国際的な視点で物事を考察できる視野を養う必要があります。よって国際芸術専攻では、協定校と綿密にプランを立てたうえでアジア研修やヨーロッパ研修を実施し、希望者に対してはその後の留学までサポートします。

自らが学び体験すること。理論と実践、この二つを柱として、芸術と人間・社会との関わりを実体験に基づいて学んでいきます。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次では世界の芸術・文化を学ぶための基礎力を養います。1年次は芸術を通して「教養」を身につけてゆくための準備期間であり、世界各国の文化を広く学ぶことでこれまでの自分の視点から脱却し、客観的な視点で広く自らの文化を見る力を身に付けます。そして国内研修、東アジア研修を通して日本国内・アジアの芸術と文化に直接触れ、文化の流れとつながりを学びます。

2年次では芸術を通して世の中を知るための方法論を学びます。社会・思想・歴史・視覚などあらゆる角度から芸術を捉え、様々な事象と芸術との関連性を見出し研究するための手法を学びます。後期からはゼミで専門性を高め、また欧米研修によって西洋文化における芸術の在り方も直接体験します。

3年次は自らが芸術を探求するための方法を深めていきます。1・2年次で学んできた知識をもとに、芸術そのものを探求していきます。芸術の持つ意味を読み解くために作品の成り立ちや仕組みを学び、自分の専門性を活かした方法論に立脚して探求していきます。

4年次は芸術と社会との接点を見出し、芸術を生み出した人間を理解します。自らのテーマを定め、これまで学んできた方法論に基づいてオリジナリティの高い研究をまとめていきます。

| | |
|--------------------------------------|--|
| 美術学科 国際芸術文化専攻 教育目標・人材の養成に関する目的 | 国際芸術文化専攻では国内外の文化理解授業、文献研究、実験や研修などの体験を通して、芸術と人間・社会とのかかわりを理論的に研究し、またディスカッション等の方法論も学び、多様性社会において芸術を通して人間・社会に広く貢献できる人材、国際的教養人の育成を教育目標とする。 |
|--------------------------------------|--|

| 科目区分 | ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | 授業科目 | |
|--------------------------|--|---|--|--|
| | 美術学科においては、以下を学位授与の条件とします。 | 教育目標に到達すべく、文化芸術に関する基礎的理論を学び、ゼミナール、バイリンガル授業で語学力、研究力を高めながら、内外研修を通して芸術と人間・社会とのかかわりを実体験から学ぶカリキュラムを編成します。 | | |
| 美術学科 国際芸術文化専攻 専門科目 | 【知識・理解】 (教養力・専門性) | 美術をはじめ様々な文化の側面や歴史、多様性を理解し、他文化への関心と国際感覚を養い、精神的視野を広げる科目を配置する。 | 1 年次 【講】 多文化理解基礎 I 【講】 日本文化研修 A 【講】 海外芸術研修 I A 【演】 海外芸術研修 I B 1 年次～4 年次 【講】 デザイン・工芸論 A、デザイン工芸論 B 2 年次 【講】 多文化理解基礎 II 【講】 日本文化研修 B 【演】 海外芸術研修 II A 2 年次～4 年次 【講】 印刷概論 【講】 工芸史 A、工芸史 B 3 年次 【演】 多文化理解演習 | |
| | 【関心・意欲・態度】 (主体性・積極性) | 現代社会において芸術・アートと関わる人間としての自覚を持ち、国内外の現代アートに関連する活動や芸術と法律の関係、芸術と科学との関係など、生涯にわたって考え、学ぶ力を養うための科目を配置する。 | 2 年次 【講】 芸術文化基礎 II A 【演】 芸術文化ゼミ I 3 年次 【演】 芸術文化ゼミ II 4 年次 【演】 芸術文化ゼミ III | |
| | | 美術活動全体を認識し、自らの専門だけでなく周辺領域の技術と理論を積極的に学び制作や研究に活かす態度と能力を身に付けている。 | 複数のテーマで構成され、様々な専攻の学生が参加するゼミナール形式の授業を履修することにより、自らの専門領域だけでなく周辺領域の理論を積極的に学び研究に活かす力を身に付けるための科目を配置する。 | |
| | 【思考・判断】 (論理性・想像力・洞察力・社会性・発信力) | 理論研究による知識を自己の表現と結びつけられる論理性や洞察力をもとに自分の目指す表現方法を確立する能力を身に付けている。 | 各分野に共通して求められる研究を理論的に進める方法について学びながら、自身の研究として深め、確立するための論理性や洞察力を養う科目を配置する。 | 2 年次 【演】 芸術文化ゼミ I 3 年次 【演】 芸術文化ゼミ II 4 年次 【演】 芸術文化ゼミ III 【演】 卒業研究 |
| | | 国際的な視点、社会問題や時代変化に関心を持ち、様々な問題に対して美術の知識や技能を活かして解決に取り組む姿勢と論理的に解決策を構想し、発信する能力を身に付けている。 | 芸術文化の背景にある社会とその変化を読み解くための客観的な洞察力を養い、美術に関する知識と国際問題や社会問題の関連性を意識しつつ論理的に問題解決策を示す能力を養う科目を配置する。 | |
| | 【技能・表現】 (創造力・獨創性・対話力) | 自身の発想を独自性のある表現の域にまで高めて作品制作、研究を行うことができる技術、表現力を身に付けている。 | 各分野で学んだ歴史、芸術理論、人文科学、社会科学、自然科学の知識をもとに自己の表現活動を独自性のある制作または論文として創り上げる力を養うための科目を配置する。 | 1 年次 【講】 芸術文化基礎 I A 【講】 芸術文化基礎 I B 【演】 グローバルコミュニケーション I 2 年次 【講】 芸術文化基礎 II B 【演】 グローバルコミュニケーション II 【演】 海外芸術研修 II B 3 年次 【演】 グローバルコミュニケーション III 4 年次 【演】 グローバルコミュニケーション IV |
| | 自身の表現や研究について言語化し、他者に伝える対話能力を身に付けている。また、他者の表現や研究について客観的な視点から分析、理解をし、ともに考察できる態度や力を身に付けている。 | 自身の感性やその表現、あるいは既存の作品や文化現象に対する客観的な理解、それを言語化して他者に伝える能力を身につけるための科目を設置する。また、国際的な観点からも他者の感性や異なる文化背景をも分析し、ともに考察できる態度や対話力を養う科目を配置する。 | | |